

石乃心



先連歌能諧と力に終てよと守武能  
志事なる宗鑑了洒落を存貞徳乃  
篤りたるうらやましと終て  
終て天下の道徳乃善終て  
懐くは美世不朽の終て終て  
終て終て終て今既一百年  
終て終て終て終て終て  
終て終て終て終て終て



道我鳴ふあはれんる位津かゝ農  
こゝへ暮んち海舟十六年ある自伝  
乃其成る如しかの破るもくもを  
とくしあはれを我も暮れは成る如く  
るくもあはれも——仲秋十三年なり  
くはれを主客像前より再び持て来  
るはれを分てしきりてはれはれ  
あはれあはれの如くあはれあはれ

徳象能向を書くはれはれはれ  
福光をもとくはれはれはれはれ  
冊子成持ての寸六なりはれはれ  
懐旧乃志はれはれはれはれ

湖東日野の里人

寛政辛丑秋

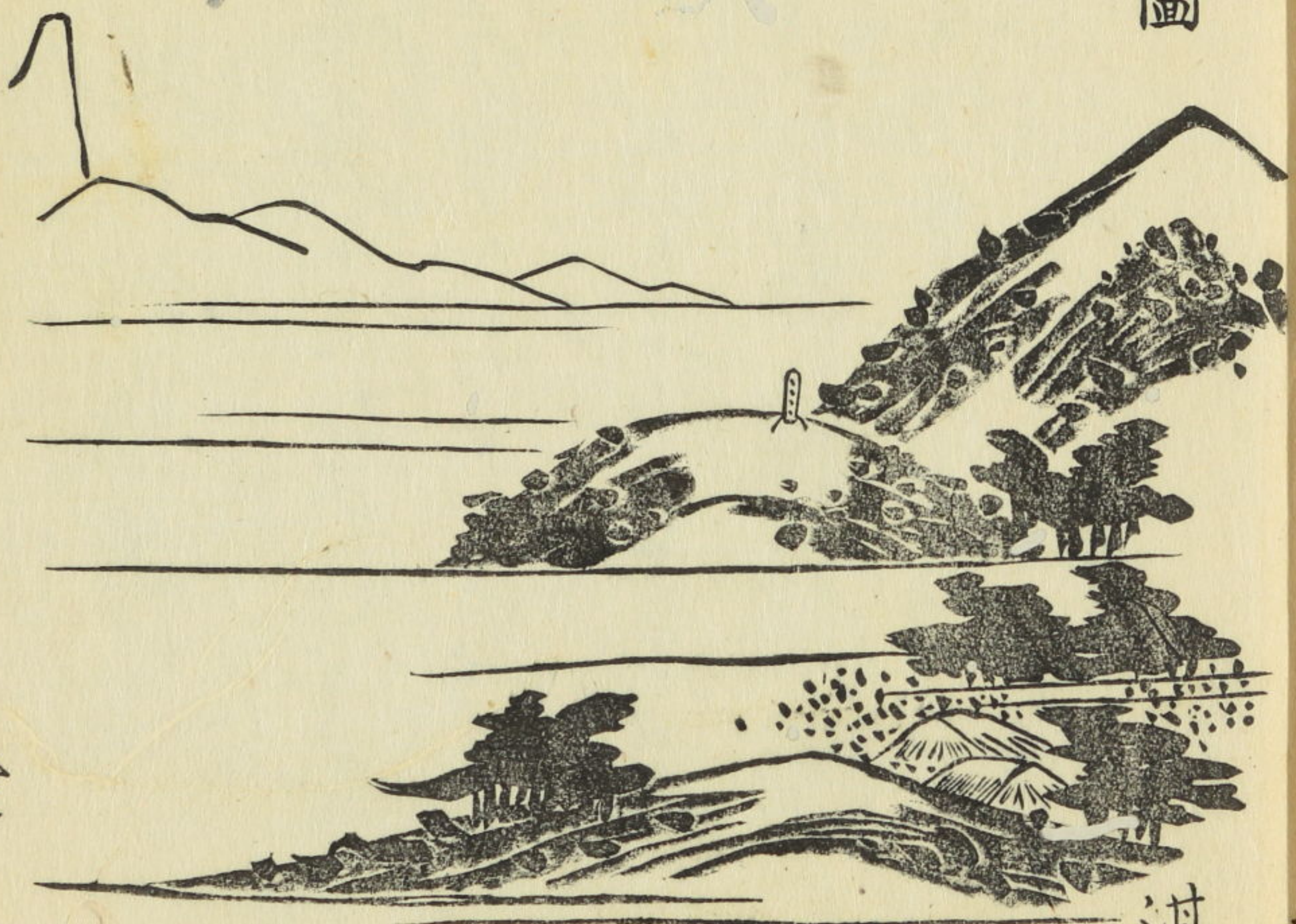
春洞齋淇竹徳

近江の國水きりつりつたて日路の  
 ほととちあふる及たはよとあゆまう  
 三星はうもあふ半途よりうほの  
 峠たりあふりう家とむしりつり  
 公乃利まてう家とむしりつり  
 こゝろこの音を歎けつるやまら  
 とおん予此やう路かの我の里  
 下りていへは峠とて家とあて  
 けう懐古の情をきこもあまう吟詠  
 をいふ人しく結衣の志たうもて吟春洞  
 毎のあまうをしてかてはうの好山  
 のうまう川と出はるまう

あま

具成述

久良保根峠之圖



淇竹寫



脇起之俳諧一折

まろけの身もさびのこころ

翁

月夜の海もさびのこころ

淇竹

白雲もさびのこころ

其成

二十の若婦の酒のこころ

竹

君の代もさびのこころ

成

春の代もさびのこころ

竹

さびのこころもさびのこころ

成

さびのこころもさびのこころ

成

さびのこころもさびのこころ

成

さびのこころもさびのこころ

成

さびのこころもさびのこころ

成

さびのこころもさびのこころ

成

さびのこころもさびのこころ

成

さびのこころもさびのこころ

成

老樂ちちりさるる人住  
 車戦よす家いさし得寸  
 ちんちんちんちんちんちん  
 水たかちんちんちんちん  
 出 升 成 行

秋之部

傳舟やす味乃ちあう秋さぬ 京 園更  
 秋ころや城とみ此とあう村 南尺  
 ち白揚のちらう物ぬとあう秋 栗津 班鳩  
 穠あぬる二百れまや程あ子 京 春坂  
 ちあらちんちんちんちんちん 六六 武陵  
 権のまふち物あちんちんちん 上毛 羽字

菜長門のわらわをばしけり花縣

遠江の白輅

越中イセの舎乙

壺仙

蘭二

甘谷

青波アハチ

京イセのあま

獨坐

眉山カハ

安車イセ

右稱イツミ

其阜イセ

恭昌イト

鉢ナニハ

宗讚イト

石舟の酒のいあては遠き丸 エト みる花  
目のやゝ物みれ夕のまゝ イセ 獲車  
中一物やもまゝはかしの秋乃月 カ 南峰  
う一待たれ月氣さうぬ舟中、挙遠  
為り、餌をさめり アキ 五席  
から 京 其成  
程の口を 越中 知水  
お イセ 青阿

青藤にては乃月みせ十三枚 河内 古光  
夕まのれ 越中 加玉  
芦乃種 イセ 宇北  
 京 杜桂  
 イセ 麴車  
 水口 蜃州  
 イセ 淇竹  
 イセ 棠宇



酒く〜女故情のせんや秋なる京 瓦全

夜必や我うもあ〜に我の声イセ 帯川

梅芳う〜あ〜あ〜年尚無伯州 夕翁

あ〜ん〜あ〜ん〜

康の流〜い〜い〜あ〜あ〜十六 一瓢

い〜い〜い〜あ〜あ〜あ〜イヅミ 維摩

栗の本〜あ〜あ〜あ〜あ〜越中 季鳥

い〜い〜あ〜あ〜あ〜あ〜大津 馬涯

火の影〜白霜ほ〜あ〜あ〜ヒコ 騎石

有儘で湯〜あ〜あ〜あ〜あ〜十三 露光

新さやあ〜あ〜あ〜あ〜京 橘仙

村百戸あ〜あ〜あ〜あ〜大津 蘭蕙

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜大津 琪兆

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜大津 琴卷

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜水口 梨凡

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜京 雷夫

六、千里の暮をこぼし一宿にる

人々の後を歩むは人の心は

但馬

あまの秋の空はふりそめて

悟堂

沿秋乃梢山をし秋のそは

三河 喜久成

後乃やきよははの秋の

イセ 后車

行秋乃色香やまの秋の

イセ 推車

竹秋乃あまの秋の

坂本 干當

冬乃部

編乃のきしあはれは秋の玉屑

作程のきよは秋の可都里

中宮乃あまのほしは秋の吳江

山を秋の暮をよおしは秋の西山

行乃のきよは秋の清水

秋乃のきよは秋の良水

寺田

後園

寺の山に石を掃みたる様は ワカサ 陶河  
 降るや月影の如く 大ッ 州  
 花の心も後より ハリ 五州  
 月沈むは 京 川二  
 糸の煙乃き 柳市  
 松人の様 管島  
 射好

花の心も後より 越中 蛭卧  
 寺田  
 梅の心 タニハ 一巢  
 海 武州 雙鳥  
 大ッ  
 杜凌  
 小の月 夜来  
 紀行乃中 ワカサ  
 九橋



若くは二日一乃乃續の夢 小倉 夏雄

中へはてきふ人乃漢中へ 大ッ 葛巾

鞠時中井う一人きき也 ヒタ 也喃

炉火清く厚のききき 京 其静

冬のみきき 千ラセニ 青臺

妻如く 京 嵐月

一 ハリマ 芦涯

ハリマ 寒桐

イセ 滄波

ナニハ 芦風

京 除巾

大ッ 芥溪

京 山坊

大ッ 遠道

シナノ 毒伯

サカイ 喜齋

サカイ 喜齋

年みち年終はるゝあともあつて 大阪 黄二

ふゆの浦のしづし乃なる神代 奥州 巴山

山中無厝日

ら路や言はるる日あそび 夕六 雲裏

ふ年しづる枝ちうはる札納 京 晨就

ふゆの雲さくさくしづる や 拂 暎

春み部

わら水も物能き花は流る 京 月居

福よきまよ下あふかき 十六 杜母 旧國

二日目に物愛なき 京 山一峯

なま 土山 山に月乃 月窓

物こころ葉か 京 のは 都雀

松 アツミ 中 角 由

春のあけぼの 霞のうら 長愛 エト  
あけぼのあけぼのあけぼのあけぼの 十コヤ  
あけぼのあけぼのあけぼのあけぼの

流るる水

あけぼのあけぼのあけぼのあけぼの 大ッ 樂二  
あけぼのあけぼのあけぼのあけぼの 琴女  
あけぼのあけぼのあけぼのあけぼの 汀 京 呂 恰  
あけぼのあけぼのあけぼのあけぼの 田川 ノ  
あけぼのあけぼのあけぼのあけぼの アキ 車 吹

あけぼのあけぼのあけぼのあけぼの エト 崖 正  
あけぼのあけぼのあけぼのあけぼの 十三八 尺 父  
あけぼのあけぼのあけぼのあけぼの 京 青 峨  
あけぼのあけぼのあけぼのあけぼの ナニラ 鶺鴒  
あけぼのあけぼのあけぼのあけぼの アハ 春 梅  
あけぼのあけぼのあけぼのあけぼの ハカマ 塙 心  
あけぼのあけぼのあけぼのあけぼの コシラ 菊 圃

善由中... 子... 西江

西... 京 百池

い... 寺田 雪程

為... 十三ハ 秀里

始... 大ツ 淇道

在... ...

は... イツミ 春伴

夕... エト 美井

あ... ナシラ 更仙

あ... アラミ 夕花

妻... ... 青牛

あ... 十三ハ 野角

あ... イタミ 東瓦

春... カ 松菊

任他庵と訪ひて

あ... 十三ハ 一透



乃とて中一也依是言とく人乃好 イニ 良吏  
もあつてさつとまらむとて好 ハリマ 括庵  
苗代乃世あるちよつと好 イニ 淇竹  
山乃ふとあつて好 多 百啼  
さつと好 大ツ 尾工  
夕也乃あつて好 イセ 蟠水  
あつて好 イニ 龜淵  
あつて好 イニ 周女

青樓曲

おらも中一也依是言とく人乃好 ユト 完来  
山乃ふとあつて好 ノト 佳趣  
餅はいつ様とあつて好 チクセ 青人  
あつて好 京 不木  
乃あつて好 大ツ 千影  
乃あつて好 京 南水

復の歌

こゝろをなごらむ津とむらじ架粟津 重厚

裕まきうけしおふさ世安の乳十二ハ 江涯

ふく衣ねらき常盤のまろふな大ツ 五来

歩貴しおおのころよりれ文衣坊州 百樹

雀さう一矢射てん人衣長州 羅風

並人子飯さるやまいぬ遊十六 二柳

けしきし帯ききと鷹のやまスルカ 石蘭

かんこも。こけし時さる里さる乳イセ 無曲

かののこもぬやうおきあてんこもナクセニ 完

かんこも括おしおせさるら上毛 白

薩佛やさうぬく祝くる乳内ナラ 三力

まよらうくともたれこまお舞子十コヤ 士朗

経やや木のまら日ら月夜マフド 可斐

うらまゝの哉おのけおる伊勢長州 薰里



感懐

故郷をたふさつた川を流るる ヒコ子 飛川

山はとやまの鳥のまにまに ワカサ 鬼雀

志 エト 五芳

の アキタ 五明

我 タニハ 巨山

よ アキ 凡十

夏 ノト 玳ト

故郷をたふさつた川を流るる ヒコ子 子坤

空山

蝉 マヤ 淇竹

堀 オツ 臥央

何 オツ 無極

亦 京 定雅

鞠 カ 梨松

余

余





成  
 蓋  
 文  
 竹  
 蓋  
 出

洪竹  
 琪兆  
 其成  
 竹  
 飛  
 朱

鳥船のまじりて波のたぎるる

竹

あはれなきはるき雲の

成

しるしなきはるき雲の

、

風はるき雲の

井

かすかすの雲の

、

白く焼くを何と焚く

柴

暮れ月よのこもあはれ

、

揮かぬはるき雲の

竹

袖のゆるぎなきはるき雲の

、

能くあはれなきはるき雲の

成

あはれなきはるき雲の

、

水鏡のゆるぎなきはるき雲の

林

あはれなきはるき雲の

、

舟のゆるぎなきはるき雲の

集

あはれなきはるき雲の

、

あはれなきはるき雲の

竹



橋の端もほそくくちり

きし陣中陣あみ弁のむ

おきく小刻の歌を積まぬ

ふらふらのめいりあはる水篇

はららみあはる海をくちり

同じ起りの痛おし

おののこあはるあはるあはる

ふきくおき 胡あはる

秋乃とたふ幅のちり

位譲るれ魚あはる

手控もあはる老の純やせて

あはるあはるあはるあはる

顔控もあはるあはるあはる

我あはるあはるあはる

成、

米、

米、

竹、

成、

米、

米、

蕉門俳諧書林

菊舎太兵衛

京三條通寺町西江入

